

2013/7/22
菊地（北大）

第5回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会議事録

日時：2013年7月22日（月） 16:00～17:00

場所：建築会館 303 号会議室

出席者：福和、久田、田辺、有賀、牧、菊地

提出資料

- ・第4回巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会議事録（案）
- ・報告書構成案
- ・2013年大会総合研究協議会開催案内
- ・調査研究委員会主催し物実施計画書（有賀）
- ・長周期地震動等への対策と建築・エリアの即時対応 WG（久田）

議事内容

1. 前回（2013/6/3）議事録の確認
 - ・修正なく承認
2. 秋の連続ミニシンポジウムと年度末シンポについて
 - ・有賀 WG は 2013/12/2、あるいは 12/18 に開催を予定している。ただし、ミニシンポというスタイルは学会にはなく、資料の通り円卓会議（公開研究会）という開催形式になる。現在、パネリストを打診中である。参加費は 1,500 円程度を予定。
 - ・田辺 WG の日程は未定。パネリストは在京者のみ。内容はメール審議とする。
 - ・久田 WG の日程は未定。内容はメール審議とする。
 - ・会議室の予約状況は電子化されておらず、ネットで確認できない。至急、現在の予約状況を、学会（酒井氏）からメールで知らせる。
 - ・開催は、建築雑誌への会告の掲載が必要。
 - ・年度末シンポについては、3/11（火）に建築会館ホールを予約済みとなっている。
3. 最終報告書のイメージ作り
 - ・牧幹事から報告書構成案の提示あり。フォーマットが牧幹事から委員へ送付される。
 - ・報告書タイトルは「レジリエントな日本を目指してー建築学会の挑戦ー」とする。
 - ・各 WG40～50 ページ程度とする。
 - ・報告書構成案にある付録 2（ミニシンポ資料）は削除し、その内容は本文へ入れる。

- ・各 WG の原稿締切は 2/14（金）、その後幹事で編集作業を行い 2/25 までに学会酒井氏に提出
- ・3/11 のシンポジウムの内容も入れる。
- ・印刷費用は年度末シンポから出る（資料を販売する）。

4. 北海道大会での研究集会について

- ・提言部会と合同で審議、以下は、17:00～の合同委員会での審議内容
- ・福和主査が総合研究協議会プログラムを説明
- ・それぞれのテーマごとに PD 形式をとる。津波→対応→継承→原発→首都
- ・最後の討論は、特別調査委員会のメンバーが中心となる。
- ・提言と討論の両方に出る委員は、内容のすみわけが必要。例えば、前半の提言では 3.11 で学んだ教訓と課題を挙げ、討論では将来を見据え解決策を探るなど。
- ・録音はすべて（午前、午後）行うが、テープ起こしは最後の討論のみとする。
- ・討論では、初めに福和主査が 5 分程度、概要を説明。その後 5WG の背景と取り組みを 5 分で説明となり、合計 30 分。その後、討論に入る。

5. 次年度の活動について

- ・福和主査が吉野会長から 7/21 にヒアリングを受けた。復興関連で特別調査委員会を立ち上げたいとのこと。
- ・今年度は、準備のためタスクフォースを開催したい。今後、北原先生がヒアリングを受ける。委員長は古谷副会長か小野田理事となる見込み。
- ・出版、刊行物の作業は、吉野会長の立ち上げる特別調査委員会の下で行うこともあり得るが、すべての出版を引き継がせる必要はなく、引継方法は各 WG の判断に任せる。田辺 WG は環境工学委員会で引き継ぎたい意向。久田 WG は新特別調査委員会で出版した方がよいという意見あり。出版のための当委員会の 1 年延長はしない。

6. 5つの小委員会の活動状況

- ・「2. 秋の連続ミニシンポジウム」にて報告した通り。

7. 今後の予定

・第 6 回委員会

日時：2013 年 10 月 15 日（火）17:00～19:00

内容：ミニシンポの開催準備状況、報告書の作成状況

現在のところ、有賀、田辺、久田は欠席、福和、牧、菊地、加藤は出席可
出席できない WG では必ず代理を出すこと。

以上